

「神との和解」

ローマ5：10

堀田修一 22・12・11

「敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです」：10

これまでの流れ。「実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました」：6。「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために（クリスマスに生まれ十字架で）死なれた」：8。これらのみことばから分かることは、

①父なる神の私たちへの愛がどれほど大きく深いものであるかです。

②キリストは自発的に死を選ばれた。主は、死を避けようとされれば、それができた。それにもかかわらず、十字架の刑が待ち受けているのをお分かりの上で、ご自分からエルサレムへと進んで行かれた。最高法院で裁判が行き詰まったときも、「おまえは神の子か」との問いに、主は「わたしはそれです」と自ら積極的に答えられたことで死刑判決が確定したのです。私たちの救いのためのキリストの死は、自発的なものでした。「キリストは自ら、十字架の上で私たちの罪をその身に負われた」Ⅰペテロ2：24。本日のみことばを味わいたい→

Ⅰ「敵であった私たち」。このみことばは、キリストの死について、もう一つの面を語る。それは和解である。私たちは、神に逆らい、背き、「神などいない、神に頼らなくても自分の力で生きるんだ」と神に敵対していた。意識しようとしまいと、私たちは神に敵対していました。

「世（世の罪、悪の快樂）の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです」ヤコブ4：4。私たち人間の心に、「苦しいときには神に助けて欲しいが、普段は、神に関わって欲しくなく、神のみこころよりも自分の好きなようにさせて欲しい」という自己中心の心、神を排除する神への敵意がある。

Ⅱ「御子の死によって神と和解させていただいた」。私たちが、神を求めようとしない罪人、神に敵意を抱いていたとき、すでに神の側から罪人で敵である私たちのために和解のためのみわざを行って下さった。人間のほうが神に背き罪を犯したのにもかかわらず、神のほうから和解の手を天から差し出して下さった。それが、クリスマスに最高のへりくだりで天から降りて来て下さった救い主イエス。神であるイエスが人間となり、十字架で私たち罪人の身代わりに死ぬために、この世に誕生された。本来、和解は罪や悪いことをしたほうが、相手に償いをし、心からおわびするときに成立する。しかし、私たち人間は、罪の自覚がなく神に、おわびする気持ちも持てなかった。また、和解するための莫大な罪の負債を支払うこと、完全な罪の償いは人間には不可能だった。そこで、神は私たちを愛して神のほうから和解のみわざを行われた。最愛のひとり子イエス様をクリスマスに世の救い主として世に送り、御子が人類の罪を負い、十字架で死なれることにより、罪の償いが完了し、罪の赦しと神との和解が可能となった。これは、人間の想像を越える出来事であり、驚くべき恵みである。あまりにも大きなみわざ、恵

みなので、私たち罪人は、自分の罪を認めることも、その罪のために主がクリスマスに生まれ十字架で死なれたことを信じることもできない。そこで神は、主イエスを救い主、主と信じる信仰も与えられたのです。神に感謝し、神を賛美します。「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたからでたことではなく、神の賜物です」エペソ3：8。神との和解の素晴らしさは、神に罪を赦され神と和解できるとき、その後、神と心が通じ合う親しい交わりにつながるという偉大な恵みです。人間関係でも同じである。真の和解は、和解で終わらず、その後、心が通い合う交わりが生まれる。あきらめずに和解を祈り求めたい。人にはできないが神はおできになる。

Ⅲ「御子のいのちによって救われる」。この9節では、二つの恵みが比較されています。一つは、敵であった私たちが御子の死によって神と和解させていただいた恵み。もう一つは、キリストのいのちによって救いにあずかるという恵みです。「御子のいのちによって救われる」の意味は？「キリストの死によって救われる」も「キリストの血によって救われる」も正しい教えです。しかし、ここでは、「御子のいのちによって救われる」と語られています。直訳は「キリストにあって救われる」です。その意味は「キリストのいのちに結合して救われる」という恵みです。そのいのちとは、主の復活のいのちのこと。キリストの血は私たちに義認を与え、キリストの死は私たちに神との和解をもたらした。しかし神の最終目的は、私たちにいのちを与えること。救いは主の死と復活の両方において成就されたのです。私たちは主を信じ受け入れたとき、主の十字架によって救われただけではない。主の復活のいのちにあずかるものとされた。こうして主のいのちの中にある者とされたのです。私たちが主を信じたとき、主の新しい命が私たちの内側に始まったのです。私もその恵みを明確に体験し証言します。今や私たちの内に、これまで経験したことのないいのちが躍動している。この恵みは、ローマ6章のテーマの先取りと言える。6：4でこう言われている。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです」。主は、今生きておられ、天で私たちを弁護する方として私たちのためにとりなしをしておられる。主は、私たちを見捨てられない。主は、私たちの罪を赦すだけでなく、私たちを罪から守っても下さる。主の祈り「私たちを…悪からお救いください」。「あなたがたを、つまずかないように守ることができ」ユダ24。「私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです」。主は常に私たちのそばにおられる。主はすでに私たちに先だって行かれた。これからもずっと強さといのちと力を与えて下さる。私たちは、主に霊的に接ぎ木されており、主のいのちにあずかり、主からいのちを注がれ続けている。「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた」ヨハネ1：16。私たちは、この世と自分の心に残っている罪の性質と悪魔との戦いがある。しかし、それらによって滅ぼされることはない。私たちのために死に復活された主は、私たちを決して見捨てず手放されない。私たちを終わりまで、栄光、救いの完成へ導いてくださる。神は御子の死と復活により、完全な贖い、償い、救いを成し遂げられた。「子たち（私たち）がみな肉体を持っているので、（神である）イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました（クリスマスの主の受肉）。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれた人々を解放するためでした」ヘブル2：14, 15。死と復活のより、主はすでに勝利を収め、今は栄光の中に生きておられる。そして、私たちはこの勝

利の主の中にいる。それが、本日の10節の結論である。「和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです」。私たちは、キリストのいのちに結び合わされており、「キリストのからだの部分である」エペソ5：30。私たちは、主を信じ、主のいのちにあるため、永遠に主が守られる。

祈り：敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいた神の偉大な愛を心から感謝します。御子のいのちによって永遠の救いに入れられている恵みを感謝します。御子イエス様が、ご自分を捨て、へりくだり、クリスマスに私たちの救いのために十字架で死ぬために、この世に来て下さり心から感謝します。この救いの福音が、私たちの身近な人々に、そして戦争の中にある人々に、世界中の人々に伝えられますように。